



公益社団法人

日本語教育学会

2021年度 第5回支部集会【関西支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2022年3月19日(土) 会場：オンライン (Zoom)

参加者：70名 (会員 51名・一般 19名)

昨年度に続き、本年度もオンラインでの開催となり、関西以外の各地域からも37名の参加を得ました。本支部集会では口頭発表3件、交流ひろば5件及びパネルディスカッション1件が行われました。

口頭発表は以下を内容とするもので、いずれも重要な事柄に光を当てるものばかりでした。

- ・「中学生の初級学習者の非情の受身理解を目指す授業デザインー地理の教科書読解の第一歩としてー」(板橋第二中学校：竹市久美)
- ・「日本語学習者のための自律的動機づけ尺度作成の試み」(鈴鹿大学：山本晃彦、関西大学：末吉朋美)
- ・「東大阪市の企業における外国人従業員の受け入れ状況」(大阪樟蔭女子大学：大河内瞳・樋口尊子)

口頭発表は大会と同じ方針で実施され、オンラインでの発表時間は質疑応答に充てられます。大会の実施方針に沿って、参加者による発表動画の視聴や発表資料の通覧は事前に行われる想定となっています。残念ながら、口頭発表に対して事前に受け付けた質問の数も会場での参加者からの質問の数もそれほど多くなく、アンケート回答では、活発な議論を喚起するためには発表当日に発表の概要を紹介する時間を設けてほしいという声が挙がっていました。

交流ひろばはZoomのブレイクアウトルームを使って実施しました。学習者の質問力を高めるための活動、非流暢さが要求される場合の会話指導、年少者向けの初期学習用の動画教材開発、大学の日本語・日本事情遠隔教育拠点の紹介、介護福祉を目指す留学生に対する支援といった様々な取り組みが紹介され、活発な意見交換が行われました。

最後に「地域日本語教育ネットワークー京都における取り組みと課題ー」と題したパネルディスカッションを実施しました。まず、京都府国際課参事の八木寿史氏が京都府における日本語教育の取り組みについて紹介してくださいました。続いて、京都府国際センター事業課長の近藤憲明氏が府内における日本語教育体制の整備と京都府国際センターの取り組みについて紹介してくださいました。次に、京都市国際交流協会事業課長補佐の濱屋伸子氏が日本語学習に関するアンケート調査結果を基に企業と個人のニーズやそのギャップなどについて紹介してくださいました。最後に、京都にほんごRingsを代表して城陽市国際交流協会事務局長の久保雅由氏がボランティア地域日本語教室の観点から地域日本語教育ネットワークについて紹介してくださいました。本パネルディスカッションを通して行政・市民ボランティアの両観点から多文化共生社会作りを目指す国際都市京都の様々な取り組みを知ることができ、地域日本語教育ネットワークの重要性と課題を改めて認識することができました。

実施後の参加者アンケートでは概ね好評を得ました。開催形態については、全国そして海外からも参加できるというオンライン実施のメリットを重視する意見が多く、新型コロナウイルス感染症の終息後もオンライン開催を継続してほしいという声が多く寄せられました。一方、1年ごとのオンラインと対面の交互の実施やハイフレックス型の実施を望む声もありました。参加者のニーズを大切にしながら、関西地域における日本語教育の更なる充実に資する企画ができるよう今後も全力を尽くしていきたいと考えています。

発表者の皆様、パネリストの皆様、参加者の皆様、そして支部集会開催に様々な形で力添えをいただいた皆様に感謝申し上げます。

(報告者 支部活動委員：ルチラ・パリハワダナ・木下謙朗・内田さつき)